

宇多津町教育委員会

宇多津町立宇多津北小学校

1 実践のテーマ

宇多津の魅力を広げ隊！～^{えん}塩でつながろうプロジェクト～

2 目標

「宇多津の魅力を広げ隊！」というテーマのもと、児童自ら課題を見付け、地域の人や I C T を活用して、情報を収集し、整理・分析してまとめ、地域へ発信したり表現したりすることで、学び方やものの考え方を身に付ける。

3 内容

単元全体を通して、地域のリソース（教育資源）を中心に活動を広げた。

「人」では、地域のボランティア団体とのワークショップを通して、もの作りの楽しさだけでなく、宇多津の塩の新たな活用法や商品価値に気付く機会となった。また、うたづ海ホテルの塩職人から塩の作り方や先人の知恵を、体験の中で教えてもらったり、塩を広めるためのロゴ作りでは、地域の絵本作家の方からよりよいデザインのこつを聞いたりするなど、専門的な知識や技能から学ぶ場となった。

「もの」では、宇多津の特産品である塩を扱うことはもちろんのこと、地域の人たちとの関わりや、学校行事や地域イベントの活用、町役場との連携を効果的に組み込んだ。



学校行事で、保護者、下級生へのPR

「こと」では、学校行事「レッツゴースクールデー」で、塩クイズスタンプラリーや塩 P R を行った。他にも、修学旅行で宇多津の塩を法隆寺に奉納したり、作ったリーフレットをホテルに置かせていただいたりした。

単元の終末には、町の子ども議会で、自分たちが作った塩商品やリーフレットを持参し、宇多津の塩の P R 方法を町長に提案し、議会で自分たちの思いを伝えることで、宇多津の町の魅力を再発見することができた。

4 成果と課題(○成果、●課題)

- 単元を通して、様々な場面で地域の人・もの・ことに繰り返し関わる場を設定することで、児童が自ら町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々の思いや願いに気付き、本気で共に進もうとすることができた。また、これらの活動を通して、自分の住んでいる宇多津町の魅力を味わい、実感することができた。
- 地域の専門家からアドバイスを受けることで、人と関わる面白さを味わえた。
- クラス間で活動時間を調整したり、それぞれの部署の進捗状況について担当教員と児童が情報共有したりすることが難しかった。さらに柔軟な対応が可能な内容を考え、全校時間割や横断的なカリキュラムの編成など、さらに研究を進めていく。



よりよいロゴにするための話し合い



宇多津町子ども議会で谷川町長へアピール

宇多津町教育委員会

宇多津町立宇多津中学校

1 実践のテーマ

うたづ検定

2 目標

宇多津町の地理や産業、歴史や文化などを学び、郷土のすばらしさを知識として深め、自分のふるさとである宇多津を愛し、誇りに思う心を育む。

3 内容

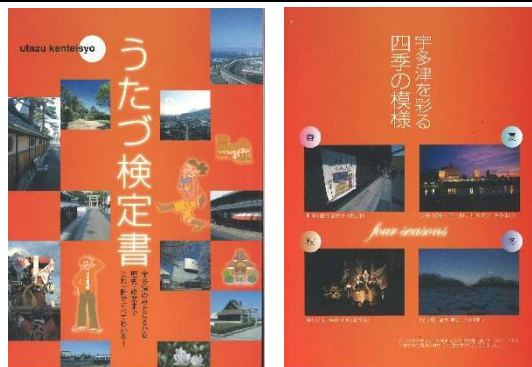
- ① 対象者：宇多津中学校1年生、2年生全員
- ② 実施時期：2学期末
- ③ 実施方法：宇多津町が作成した宇多津検定書を中心に、30問の問題を作成し、以下の基準で1級から5級までを認定し、3級以上を合格とする。(1級：90%以上、2級：80%以上、3級：70%以上、4級50%以上、5級50%未満)
- ④ 出題範囲：・町の成り立ち、古街関連、・産業、・観光関連、おひなさん・町の歴史、祭り関連、文化財、・宇多津町出身者・最新の内容(四国水族館、瀬戸芸等)
- ⑤ 出題方法：出題範囲の中から何点かピックアップ(毎年異なる)し、予習をする時間を設けて出題する。

- ⑥ その他：最新の内容等については、検定書に加え、宇多津町教育委員会が作成した予習帖を使って、事前に検定に向けて学習できるようにしている。

3 成果と課題

(○成果、●課題)

- 宇多津検定をきっかけに「もっと宇多津のことを知りたい」等の意見が多数あった。検定にチャレンジすることをきっかけとして自主的に知識を深め、ふるさとに興味関心が持てるようになった。
- 継続して中学校1年生、2年生の時に検定を実施しているので、大人になってからも宇多津町を語るときのきっかけの一つとなっている。
- 合格率が、令和5年で約2%と非常に低い。「もっと予習がしたい」という中学生からの声があるが、時間的に難しい。また、合格率を上げるために安易な問題にすると、うたづ検定自体の重みがなくなかねない。このバランスが非常に難しい。
- 「非常に良い取り組みなので小学校にも広げてはどうか」という意見が出ている。対象をどのようにするかということも今後の課題となっている。



うたづ検定書(表紙左、裏表紙右)

うたづ検定 予習帖 令和7年度版

まつりについて

◎特殊神事「初白祭」(はつもうしさい)

旧暦で10月の一帯はじめの申(さる)の日に行う祭であったが、現在は10月10日に行われている。この祭りが、例祭の準備の第一段階でもある。この祭日には、「蛇」の祭儀と「蛙」の祭儀がある。

「蛇」の祭儀は、特殊神事で、古い神事(おとけい神事)である。神職が近の刻(午前2時頃)に「御霊岩」に、古式に則った神饌(お供え)をさげて神事を行う。神饌は、お米を蒸して竹筒に入れ煮きだしたもの、煮人根、イリコー匹のみ。これを鳥が飛び来てついで、その鳥の多い少ないによってその年の吉凶を占う。

また、この神事では、宮司が、その年の秋祭りが近づいた事を報告し、その無事を祈り、五穀の豊穡と暮らしの安寧を祈る。

「蛙」の祭儀は、氏子総代から氏子委員が参列し、宮司が豊作になること、今年の豊作に感謝して、秋祭りを行う旨を「愛」する。その後氏子祭の「神幸行列」の持ち物の担当(頭場)を決めたり、太鼓台の順番をきくで決めたりするなど、例祭の打ち合わせを行う。

◎秋祭りについて 10月第4週の週末(金曜日～日曜日)

・地蔵神社の例祭と、宇多津神社例祭とをあわせて、3日間の秋祭りが行われる。

金曜日	土曜日	日曜日
地蔵神社の例祭 午後2時半 神社を出発	宇多津神社の例祭 午後3時 神社を出発	
お祈所 (宇多津半または田町神事場・隔年交代)	お祈所 (宇多津半または田町神事場・隔年交代)	
地蔵神社の 育 宮 祭	宇多津神社の 育 宮 祭	

・宇多津の太鼓台の神像は、古い歴史と伝統を持つ「赤恵の屋敷御田」にこの神像は、宇多津神社に由来する。

<宇多津の神幸行列の特徴>

- ①お祈所までが長いこと、まちなかを行列が縦横に歩くこと
- ②昔ながらの形を保存していること。
- ③多くの人が参列すること。(幼児が参列すること)
- ④旗田彦(ち・はつ)が、町内を走ってお菓子を配ること

- ・奴は、神輿が通る前に道を清める役目を持っている。
- ・舞姫は、神輿が発進する前とお祈所で神楽舞を奉納する。

▼参考文献

- 『続・宇多津町誌』(平成22年宇多津町発行)
- 『宇多津の歴史』『宇多津秋祭り』(宇多津町ホームページ)
- 『香川県の民俗芸能』(平成10年3月瀬戸内海歴史民俗資料館発行)

◎古街について

- ・町家とは…商業や工業を営む町人の住宅のことを言う。
- ・町家の特徴：道路に対して間口が狭い。間口3～5間が多い。(1間は約1.8m)。

・最も多いのは「うなぎの寝床」を集める工夫であるほかに、1間口の大きさに応じて分接しから通りに面して家に住みだしたという説がある。



令和7年度版予習(一部)